

自立援助ホーム『カリヨン タヤけ荘』より

嬉しい訪問。町会の方から《ふれあい雪谷》に原稿を～と
言っていただきました。東雪谷に来て2年が過ぎましたが、地
元の方とのつながりが薄く（努力不足です）良い機会になれば
嬉しいです。カリヨンタヤけ荘は【自立援助ホーム】です。ご
存知でしょうか？義務教育を終えた子どもたちの暮らしの場
です。いろいろな事情を抱え、家庭での生活が難しい子どもた
ちが、働きながら自立の準備をする所です。前号『あさがお号』
で紹介されていた救世軍機恵子寮（児童養護施設）とは違い、
利用料がかかります。（タヤけ荘の場合は、個室利用料と光熱
水費、食事代を含め、1か月¥30,000です）

日本初の子どもシェルターをつくったカリヨン子どもセン
ターが母体で、シェルターからの出先の場、と考え2006年3
月に「あしたはきっと晴れるよ」の願いを込め【タヤけ荘】と
命名し、設立されました。10年間は江戸川区での活動でし
たが、2016年7月、こちらに移転して参りました（どちらも支
援者のご厚意に依る物件です）。【タヤけ荘は変わらず小岩に
あるからね】との卒業生へのメッセージが【東雪谷にずっとあ
るからね】に変わっても、《一緒に考えよう～あなたは一人
ぼっちじゃないんだよ》と、変わらずに言い続けていきます。

（笹丸・カリヨントヤけ荘 ホーム長 小久保志津子）

ふたたびの仲池上

雪谷地区の皆さんと一緒に、この地に暮らすようになり14
年目を迎えた。

勤務先が、転勤・異動の比較的多い企業であったので、この
地に名古屋から引っ越してきた。知り合いもなく、子供達は小
学生だったので、知人を作ろうとPTAのお手伝いをした。P
TAのお手伝いが中学校でも続き、さらに卒業後は、地区の自
治会のお手伝いをさせていただいている。自分の知識が増える
こと、視野が広がったこと等勉強させられる。

実は、昭和45年頃、仲池上二丁目にほんの短期間住んだこ
とがある。確か元読売ジャイアンツの原田氏のご自宅の近く
だったような気がする。原田氏の父上が、近所の子供達に「す
もう」を指導していると聞いた記憶がある。

当時は、今のように目だった建物もそう多くなく、にぎやか
ではあったが、運輸倉庫会社や学研が目立つ土地柄と記憶して
いる。地元の皆さん、企業を営む皆さん等々の力で、この辺り
の変貌は目を見張るものがあると再認識させられている。

勤務先がモットーとして、社会貢献・地域貢献を社是にかか
げる企業だったので、様々な奉仕活動等に参加してきた。雪谷
地区でも、経験を生かして少しでもお役にたてればと思っている。

今年度より、本誌の編集委員に選任されました。よろしくお
願いいたします。

（上池上・船山康夫）

シニアの現場は花盛り 会員倍增・笑顔も倍增！

とにかく現場は笑顔で美しい。笑顔の華を我が小池自治会
いっばいに咲かせたい！こんな思いが通じて文字通り、この5
年間で仲間は倍增、間もなく100人の大台に届きそう。皆さん
の口コミのお陰です。今の時代、楽しくなくっちゃ人は集まり
ませんものね。

一生懸命、皆んなで考え、一生懸命しゃべくって、しゃべ
くって…。 “いきいき体操やってみますか？習えばできるか
も…” “声出しは健康のもと、ピアノはないけどテープで
コーラスやってみますか？” “俺、好きな囲碁将棋をやってみ
ようかな？” “映写会どう？初めは3人集まればいい” “敬老
の日なんて古臭い。「生涯青春の集いに」しませんか？” …。

先輩後輩、皆さん建付けが悪くなってきしむ体に一鞭入れ
て…。しかし、出てきたのは皆が楽しむ知恵ばかり。月2回の
いきいき体操とコーラスはセットで大好評、遂に大田区民ブラ
ザでの民踊大会の大舞台に出演2回、30人余、しかも普段着
で。今や立派なエンターテナーです。これまた月2回の囲碁将
棋、小学生から25人～30人、遠方からも。「小池名画座」っ
て名付けた映写会、偶数月で洋画と邦画交互の上映「希望と涙
と勇気」がコンセプトです。今年の6月で15回目。第3土曜日
13時から、皆さんどうぞ、もちろん、無料です。

小池白寿会から「小池シニアくらぶ」と昔の名前も変えまし
た。これで小池自治会館に集うシニアは年間おおよそ1500人
に。ちょっと素敵じゃないですか？

（小池・小池シニアくらぶ会長 沼本光史）

** 編集後記 **

暑い、暑い、暑いっ、どうしてこんなに暑いんだ！東京でも40度を
超えたって？このまま何も対策をしなければ2100年には44度になるっ
て？ところで、対策って何？地球温暖化対策のことか。それって、20年
も前から言われてるよね。ほら、京都議定書のことだよ。国際的な取り決
めに「京都」って文字が入っていたんで少し誇らしく思ったよ、あの時
は。

えっ？お前も20年前からメタボに気をつけろって言われてるだろうっ
て？うまいものをたらふく食う習慣がついてしまったら、なかなか直らな
くって…確かにいまだにメタボだよ。でも、だからって困ったことも
あまりなかったし、気にもしていなかったよ。そのうちツケが回ってきて
後悔するんだろうね。この暑さもそんな感じかもね。

…炎天下、石川台の坂を登りきってたどり着く雪谷特別出張所への
道すがら、ついこんなことを考えてしまう今年の夏でした。

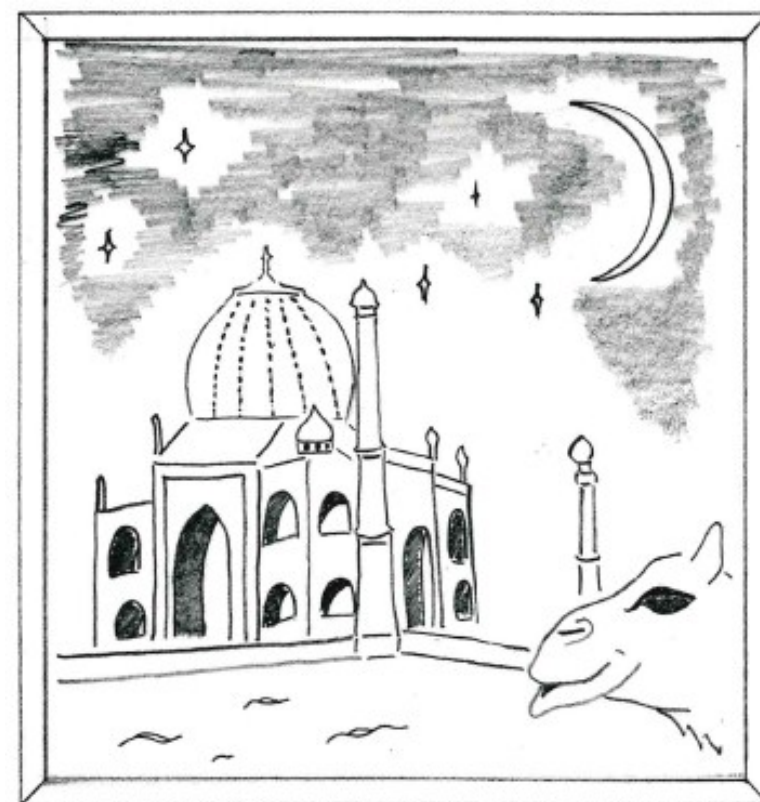
（南雪谷・河野洋一郎）

ふれあい雪谷(創刊・平成2年(1990)12月20日) 年4回発行
(1月・新年号／4月・さくら号／7月・あさがお号／10月・もみじ号／の1日発行)
[発行日] 平成30年(2018年)もみじ号 10月1日(通巻・第112号) 発行
[発行] 地域力推進雪谷地区委員会 [編集]「ふれあい雪谷」編集委員会
[連絡先] 雪谷特別出張所
〒145-0065 大田区東雪谷3-6-2 電話3729-5117 FAX3729-1826

http://www.city.ota.tokyo.jp/chofu/ts_yukigaya/index.html

ふれあい 雪谷

平成30年10月 もみじ号 通巻第112号



タージマハル

東中・A.H

誇れる我等が地域よ

誰しもが生まれ育った土地には郷愁がある。私の住む洗足池・小池を取り囲む地も、嘗ては畑が多く、夏にはトンボや蝉を追う子供達の姿が、随所に見られた。八つ手の実を玉に、竹鉄砲で遊ぶのどかな風景もあったが、幸いにもわが街は良好な住宅地として発展し続けている。

平成28年暮、洗足池駅前の歩道橋が、長年の住民の尽力で、近隣の方々に見守られながら40年間の勤めを果して撤去された。美濃部都政の遺産だったが、再び風光明媚な景観が中原街道沿いに戻ってきた。

現在、昭和初期の建築物「旧清明文庫」を改修して、日本唯一の勝海舟記念のミュージアムが平成31年の開館をめざし、着々と進行中である。海舟夫妻の墓所への道は、すでに工事も済み整備された。

江戸城無血開城の勝・西郷両雄の池上での会談、「宇治川の先陣争い」の勝者が乗る名馬「池月」の生産地、池上山へ向かう名僧日蓮が立ち寄り休息した御松庵、袈裟掛けの松や「千束池」から「洗足池」に変わった由来など、話題に富んだ自慢の地です。

今後、洗足池駅を中心とした地域のまちづくりを進めていき、益々、全国にも誇れるわが郷土として成長するよう願っています。

多くの方々の来訪を地域の皆さまと共に迎えたいと思っています。

(池の台・洗足池商店街店主 平澤久男)

地 域 貢 献

私は、高校を卒業と同時に18才で上京し、製罐会社に入社。63才まで45年間勤務してきました。現在は、小学校の交通誘導員として日々子供達とのふれあいを楽しみにしています。

最近は特に健康のことを考えることが多くなりました。今、心掛けていることは、通勤の中で工夫して運動をすることです。通勤は自転車で片道20分ですが、歩くと最短で50分かかります。天気の良い日は、遠回りですが多摩川の河川敷を歩きます。遠くに富士山が見え四季折々の草花が多摩川の流れと共に心を癒してくれます。多摩川大橋からガス橋、ガス橋から丸子橋を抜けて自宅まで約80分の道のりです。朝は自転車で行き、帰りは多摩川を歩いて帰り、そして午後は、また歩いて学校まで行くようにしています。一日120分のウォーキングが目標です。そのおかげで、68kgあった体重を65kgまで減量することができました。今後の目標は63kgまでに減量することです。いまや人生100年と言われるほど長寿化が進んできました。私も人生100年と定め、最後まで自分の足で歩くことを目標に健康管理に心掛けていきます。

私は、以前から何か地域のために出来ることはないかと考えていました。退職後は、少し時間に余裕ができたので、昨年4月に消防団に入団することにしました。やはり、いざと言う時に動けるようにするためには、日頃の訓練が大切だと考えていたためです。消防団で訓練を受け、いざと言う時には、地域の皆様のお役に立てることを目指して日頃の訓練に精進していきます。また、40年もの間、活動をしている洗足池

を守る会という会があります。この会の発足当時、池にはアオコが大量に発生していて環境の悪化が懸念されていました。そこで立ち上がったのが守る会のメンバーでした。当初は、ゴミの片付けやアオコの除去作業や池周辺の清掃活動を中心に行っていました。また、古紙の回収やアルミ缶の回収で得たお金で施設に車椅子の寄贈なども行ってきました。守る会の会長が千葉に引越しをすることになり、私が次の会長として推薦され、現在活動中です。昨年は、洗足池を守る会発足40周年の記念行事をして洗足池に桜の苗木を植樹することができました。今は、新聞回収をしながら、活動資金を貯めて洗足池に寄与できるように活動しています。毎月一回メンバーと共に洗足池を巡回して、気づいたことや改善が必要なことがあれば区のほうに連絡を入れています。

今後も地道に活動を続けて地域の人々が、やすらげる洗足池にしていきたいと思います。今、テレビ東京で人気番組の『SOSかいほり大作戦』がありますが、洗足池でも外来種の排除が出来ればいいナーと思っています。

(雪谷石川台・細井宏二)



**スポーツ健康都市宣言記念事業第35回大田区区民スポーツまつり
雪谷地区9自治会スポーツまつりが開催されます！！**

日時 平成30年10月7日(日)

場所 雪谷小学校 校庭(雨天時は体育館)

時間 午前9時30分

当日の参加も可能ですので、奮ってご参加ください！

尾 瀬

私が初めて尾瀬という地名を聴いたのは、昭和二十六年にNHKラジオ歌謡番組から流れて来た「夏の思い出」という歌でした。その歌は当時から大変大きな反響を呼び、一部のマニアしか知らなかった「尾瀬」が全国的に有名になり、多くの人が今では訪れる場所になったのです。

私も今から五十九年前の昭和三十三年六月六日に尾瀬に行きました。上野から夜行列車に乗ると早朝には沼田に着き、バスに乗り換えて大清水に向かいました。ダケカンバやブナ林の中を通り、三平峠に行く途中には木々の間からは残雪を頂いた燧岳が見えまいた。尾瀬沼のほとりには真っ白な水芭蕉が沢山咲いて、一番の見ごろでした。尾瀬沼の湖畔には長蔵小屋あり、広い土間では登山者が自由にくつろいでいました。山小屋の隣には船着き場があり、私はそのポンボ船に乗って沼尻に行き、そこから燧岳に登りました。残雪が美しく楽しかったのですが、登って行くうちに、私のバスケットシューズでは滑ってどうにも登れなくなりました。私が困り果てていたら、なんと直ぐ傍に荒縄が雪の上に落ちていたのが見えたのです。「神の助けだ！」と私は思いました。急いで荒縄を靴に巻き付けて歩いてみたら滑らずに歩けたのです。やっと頂上に着き、日光連山、上越の山々、会津の山々が快晴の空の下に見えました。西側には木道の敷かれた尾瀬ヶ原と雪をかぶった至仏山が見えました。

私は西側の温泉小屋の方へ下りました。見晴(みはらし)に着くと湿原の彼方には白樺林が美しく並び、間近に雪が残った至仏山が迫って見えました。湿原には大小の池があり、木道が敷かれていました。その日は山の鼻小屋に泊まり、翌日七日は朝から小雨だったので至仏山への登山は諦めて、鳩待峠の方へ降りました。当時の鳩待峠には広場がありますが、山小屋も無くて人っ子一人いませんし、勿論車も停まっています。私は雨の中を砂利道を二時間半かけて戸倉まで下りました。

平成二十九年九月二十九日、私は再び尾瀬に行きました。大清水から入山し五十九年前に歩いた道を辿りました。古い長蔵小屋はありましたが、中に入れなくて使用できなくなっていました。ビジターセンターやヒュッテ山小屋など色々な建物が工事中で、ヘリが荷揚げの為に飛んでいました。私は沼の北側を通り、沼尻峠をぬけると見晴に着き、その日は尾瀬小屋に泊まりました。その日の歩行数は二万九千歩で、時間は五時間でした。

翌日三十日は三条の滝に向かいました。岩の上には木で造った見晴台があって、そこに登ると周囲全体が良く見え、落差百メートルの三条の滝は轟音を立てて水が流れ落ちていました。ここが只見川の源流です。滝を後にして東電小屋、ヨッピーの吊り橋、山の鼻小屋をぬけて鳩待峠に着きました。尾瀬は今では誰でも行ける所になりました。今日の歩数も二万九千五百歩、時間も五時間でした。半世紀以上を経て、二日で約六万歩を歩き、尾瀬沼をこの胸に十分に納められたことは良い記念となりました。

(東雪・高野英毅)

